

2022 夏 新型コロナ・オミクロン株蔓延の中敢えて山へ(個人山行)

～ その1 懐かしき大雪溪・白馬岳 (2932m) ～

(報告) 赤澤 東洋

2019年中国で発した新型コロナウイルス、その後様々な変異株を生じ、今はオミクロン株が猛威を振るい日本は異常なほどの感染者増となって医療現場は大混乱だ。2年前なら戒厳令もみかざる状況なのに何故か行動制限とはならず、それをヨシとして敢えて山へ向う。80歳となり先行き短き人生、動けるのはせいぜいあと2～3年なのだ。

▲▲▲ その1 懐かしき大雪溪・白馬岳 (2932m) ▲▲▲



(小蓮華山から白馬岳を望む)

◎期日 : 7月20日(水)～22日(金)

◎メンバー: 赤澤他1名(妻)

これが3回目となる白馬岳。1回目は今から61年前、1961(昭和36)年8月浪人中の事、高校時代の仲間4人と大雪溪を登り白馬岳山頂からは清水平を経て祖母谷温泉に下山し、黒薙温泉から日本海へ抜けた。往復共に夜行列車を利用(往きは新宿21時30分発準急「こまくさ」で信濃四谷まで700円、復路は魚津から直江津へ出て準急「妙高」にて大宮へ650円)、車中2泊、山中3泊、計5泊6日の山旅、あの頃の受験生は呑気なものだった。

2回目は36年後の1997(平成9)年7月単独行。白馬頂上からは雪倉岳、朝日岳を経て蓮華温泉に泊まり糸魚川へ抜けた。往きは新宿発23時54分発臨時電車「アルプス85号」白馬到着5時45分6500円、帰りは糸魚川から直江津へ出てホクホク線で越後湯沢からは上越線～高崎線と乗り継ぎ5時頃帰宅した。

今回は夜行バスを利用する。相棒は浮かぬ顔だが新宿⇒猿倉8150円と安価で時間も効率的に使えるので便利である事を強調する。が、案の定殆んど眠れず大雪溪では調子出ず息絶えだえとなり臍を噛む羽目となり夜行バスは年寄りには難しいものがあると反省した。

今にも降り出しそうな雲行きの中、6時35分猿倉を出て白馬尻に来てみると小屋が無い。ここには白馬尻小屋と白馬尻山荘と2軒の山小屋が建っていた筈だが雪崩にやられたのだろうか、基礎部分が残さ

れているだけで少し驚く。同じバスで来た人達はもう大雪溪に取りついているようで、先行者 4~5 名 寛いでいるのみ、コロナもさることながら、この所の不安定な天気の影響もあってか人出は極端に少なく 拍子抜けの感。

8:45 軽アイゼン装着し大雪溪へ踏み出すも、歩きだしてすぐにアゴを出す。目に入る先行者は 30 名 程で、これはもうかなり上において、後続は 10 人いるかないかという程度。97 年の大雪溪では長い行 列が出来ていた事を思い出し、時期が同じなのにあまりの違いに唖然とする。



(↑ 登山者が少ない大雪溪、今回の様子。下の 25 年前の写真と比較されたい)

久しぶりの大雪溪は寝不足のせいもあり足が あがらず苦しくて先行者との距離は開くばかり、 後続の何人かにも抜かれ、2 時間半以上かか って漸く大雪溪が終了。岩に腰掛けアイゼン外 して右手の尾根を青いロープに添ってジグザグ の急登を繰り返し、しばらくして小雪溪に行く 手を阻まれた。ロープはあちこちに散乱してい て生憎のガスでどっちへ行ったものか分からな い。

過去 2 回とも人が多く先行者の後を付いてい けばいいだけだったのだが、今日は人の気配は なくまよと雪壁に取りついてみたが軽アイゼン とストックではとても無理、わずか 10 分位 なものなのにと恨めしいがともかく引き下がり、 ウロウロしていたら、山小屋の関係者らしい男 性が登ってきたので指示を仰ぐ。左手小沢を渡 り少し上って右へ大きくトラバースするとの事 でヤレヤレだった。

その先避難小屋辺りから恐れていた雨が降り だし村営頂上小屋からは本格的な雨となり小屋 から山荘までの苦しかった事、すっかり濡れそびれ 15:50 漸く白馬山荘に到着。猿倉からなんと 9 時

(↓ 25 年前の同時期の大雪溪の混雑の様子。2 枚共)



から山荘までの苦しかった事、すっかり濡れそびれ 15:50 漸く白馬山荘に到着。猿倉からなんと 9 時

間 15 分、25 年前は途中で 20 分程昼寝したにもかかわらず 6 時間だった事を思うと、なんともお粗末な限り、もう笑うしかない。2 人共心底バテバテで小屋に入るやいなやベンチに倒れ込んでしまったものだ。

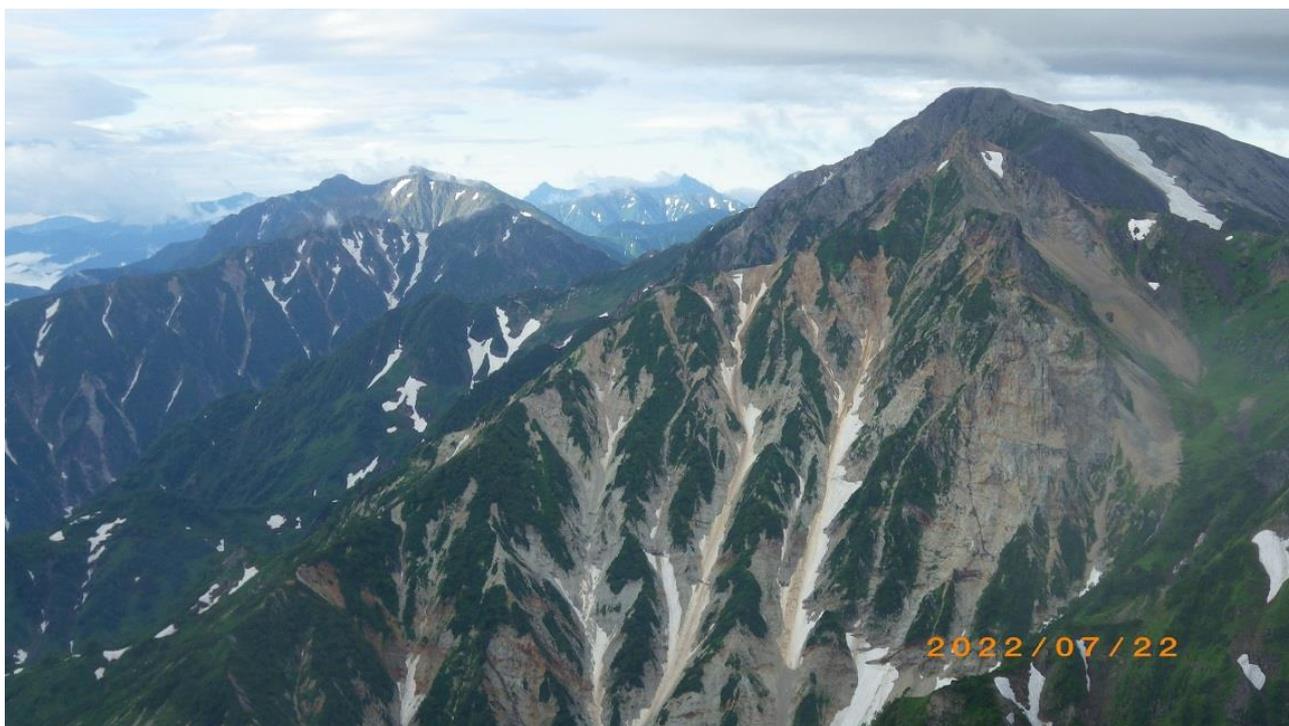
この日の宿泊者 70 名余、25 年前は 1500 人、畳 1 枚に 3 人という体験をした身には実に信じがたい。あの日 1 時頃到着だったので受け付はすぐに済んだが、3 時過ぎに到着した人達は受付まで 2 時間待ちだった。夜中強風雨だったらしいが疲れたせいも熟睡。

(↓ 雨の白馬岳山頂)

2 日目、4 時起床、軽食済ませ 5 : 15 誰よりも早く雨の中出発。三国境付近から雨が上がり途中雪倉岳等も見えてきて、小蓮華山からは鹿島槍の右手に遠く槍ヶ岳も確認出来る位に青空が広がりニンマリする。昨夜の風雨を思えばこれはラッキー、こういうご褒美があるから山は止められないと昨日の苦勞が少しは報われた思い。



(↓ 小蓮華山より、左 : 鹿島槍、中央 : 槍ヶ岳、右 : 杓子岳を望む)



白馬大池から乗鞍岳を過ぎ天狗原辺りまでは雪渓と雪田交じりの大石ゴロゴロした歩き難い道で途中から又雨となってしまう雨具を着こむ羽目となったが 13 : 05 樽池ロープウエー駅に無事到着、バスを乗り継ぎ 9 時過ぎに帰宅する事が出来た。楽しみにしていた久しぶりの大雪渓、残念ながらこれはもうノーサンキューと云うしかない心境である。

《コースタイム》

1 日目 : 猿倉 6 : 35 → 7 : 50 白馬尻小屋跡 8 : 00 → 大雪渓末端 8 : 45 → 11 : 20 大雪渓終了点 11 : 30
→ 15 : 25 村営小屋 → 15 : 50 白馬山荘

2 日目 : 白馬山荘 5 : 15 → 5 : 35 白馬岳山頂 5 : 40 → 6 : 20 三国境 → 7 : 15 小蓮華山 → 8 : 10 船越の頭
→ 8 : 55 白馬大池 9 : 10 → 10 : 05 乗鞍岳 → 13 : 05 樽池ロープウエー駅 (了)